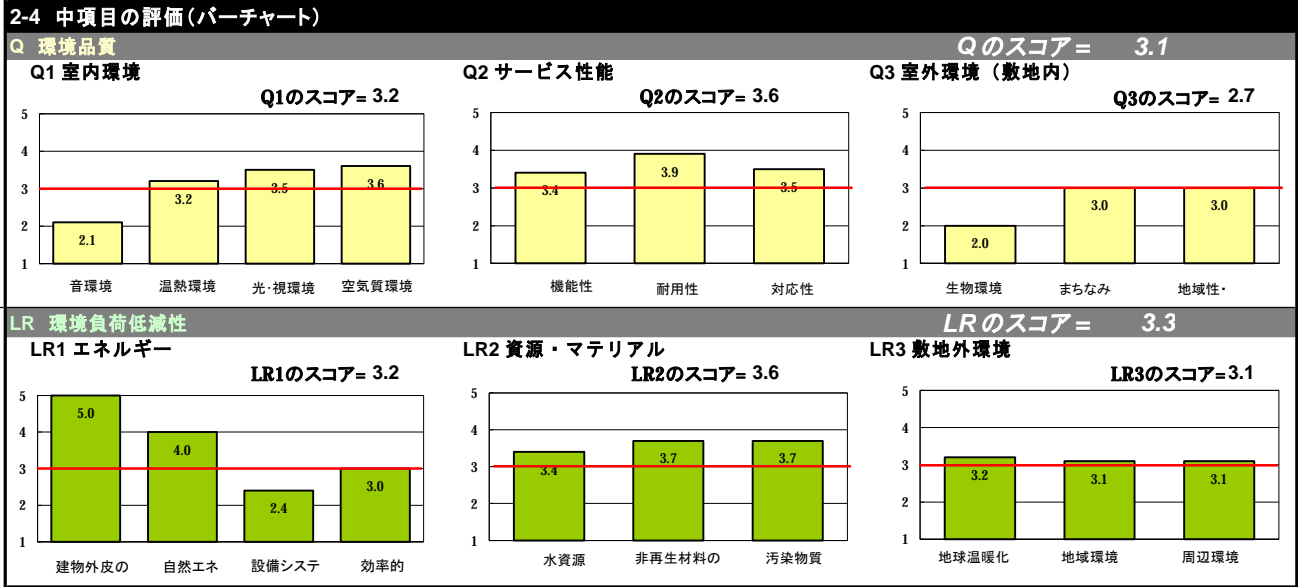
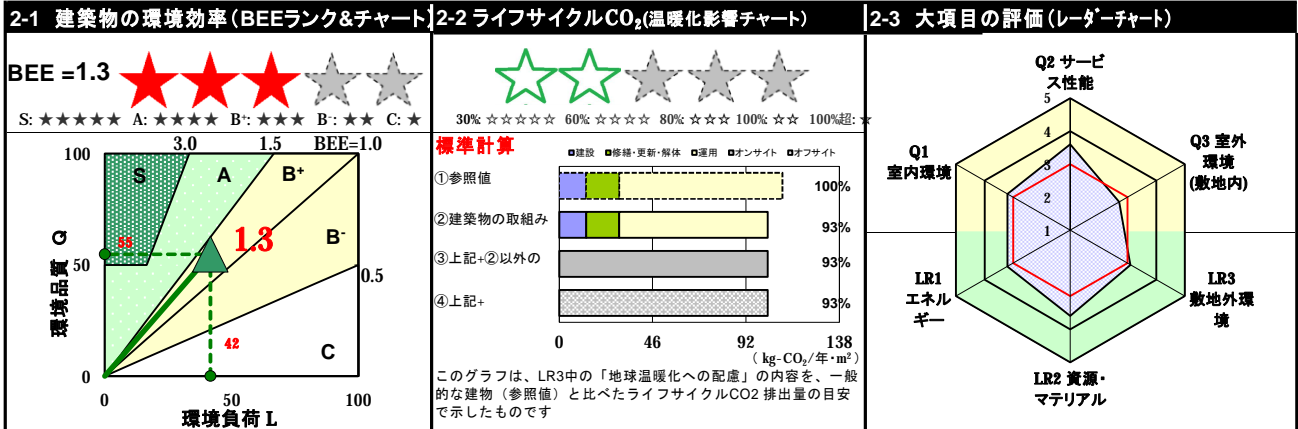


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大日本除虫菊中央研究所	階数	地上3F
建設地	大阪府豊中市大黒町	構造	RC造
用途地域	工業地域、指定なし	平均居住人員	57人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年10月11日
敷地面積	4,677 m ²	作成者	米澤 俊樹
建築面積	1,867 m ²	確認日	
延床面積	3,871 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
本建物は、豊中市に新たに新設される研究所である。研究施設のためクリーンルームなどの特殊な室もあるが、全体としてBPI値およびBEI値が基準値よりも低く、省エネルギー化に配慮した計画となっている。	0	
Q1 室内環境 窓、外壁、屋根において、室内の熱侵入に対し、最良の日射遮蔽係数および断熱性能を有する。	Q2 サービス性能 階高、天井高さにゆとりがある。設備の設置は屋上をメインとしていることや、OAフロアの採用など、設備更新を見据えた計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に緑化を行っている。
LR1 エネルギー 建築外皮の熱負荷抑制と設備システムの高効率化に配慮している。また、中廊下型プランに対しトップライトの採用など、自然光を積極的に取り入れた計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水に配慮している。また、躯体、仕上げ材、設備が容易に分別可能であり部材の再利用可能向上への取り組みの評価が高い。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を7%削減している点や、敷地内の動線計画のほうでサービス用の動線を別途確保している点が評価できる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)大日本除虫菊中央研究所					
	建設地	大阪府豊中市大黒町					
	用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					2	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.4	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		